

岐阜大学

# キャリア支援部門 ニュース

No.13  
2017.10

<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html>



## 未来を切り拓く

白村 直也

教育推進・学生支援機構  
特任助教

本年4月に着任した白村直也（はくむら・なおや）です。主にキャリア教育に関わる授業を担当しております。

政治や経済、そして文化をはじめとする社会情勢が目まぐるしく変化する現在では、以前にはなかった多様な価値観や働き方が生まれつつあります。そうした中で広く社会を見渡し、氾濫する情報を精査・分析し、自分の考えを整理し、動く。そうした未来を切り拓く能動性を学生一人一人の中に育むにはどうすれば良いかを日々模索しています。

貴重な学生生活の間にどのような力を学生に身につけてほしいか。社会で生涯にわたって高度な専門職業人として活躍するため、「基盤的能力」として「考える力」「伝える力」「進める力」を岐阜大学は掲げています。この力を身につけるためには、なるべく早い段階からの意識的な取り組みが求められています。

私が担当する授業は全学共通科目に属し、1年生や2年生の学生が主に履修していますが、早い段階から「基盤的能力」の育成に着手する目的もありNPOやNGO、そして民間企業等からゲストスピーカーを積極的にお招きし、お話を伺っています。そうすることで社会で今何が起きているのか、どのような問題があり、その解決に向けてどのような取り組みがなされているのかを伺う機会を多く持っています。その過程で芽生えた「？」を自分の中で整理し、仲間同士（グループワーク）で共有し、その解決に向けての行動をするよう促していくプロセスを重視しています。

入学後の早い段階からこうした作業を繰り返す中で自分の将来、キャリア形成を丁寧に見つめ直す契機を持ちます。自分は将来どのような人生を歩んでいくのか。どんな仕事に就いているのだろうか。そもそも自分が就きたい仕事はどのような仕事なのか。こうした疑問は多くの大学生が抱えるものです。ひとこと「キャリア」というと、おそらく就職活動や学生生活の間取るべき資格などが思い浮かぶと思います。ですが、「キャリア教育」を通じて得られるものは、就職活動に関わるテクニックだけではありません。私は自分が担当する授業を通じて、その一歩手前の、現在の自分が置かれている状況(世界や日本、そして身近な社会情勢)を把握し、その中で「生きる」とは、そして「働く」とはどういうことなのかという、広い意味での「生き方」や「働き方」について考えることに重きを置いています。広く情報のアンテナを張り巡らし、グループディスカッションを通じて他者の意見に耳を傾ける中で多様な物のとらえ方を身につけ、同時に自分の意見や意志を形作る。そうすることで未来を切り開いていく能動性を学生一人一人の中に養っていきたいと考えています。



## 先輩社会人寄稿

### 挑戦者でいたい

#### 佐賀 達矢

平成22年3月  
大学院応用生物科学研究科修了



私は応用生物科学研究科で修士号を取得し、高校理科教員になった。その後、休業して東京大学大学院にて博士号を取得し、現在は職務に復帰している。

さて、突然だが、映画「男はつらいよ／山田洋次監督」をご存知だろうか？私は、修士課程での指導教員の「指導」により、この作品に出会った。この映画は、車寅次郎（寅さん）という強烈な個性をもつ主人公と彼を取り巻く人々の人情喜劇だ。寅さんは暴言を吐いたり、激昂して暴れたり人間的に明らかに問題がある。それにもかかわらず、寅さんは劇中では周りの人から愛され、作品自体も人々から愛されている（映画シリーズは1969年～97年まで続いた）。当時の私は寅さんを観て、なんて不完全な人間なんだ！と思った。しかし、直後に、「この世に完璧な人間なんて誰一人いやしない！」ということにもハッと気がついた（結局、はまってシリーズの半分程イッキ見した）。

今まさに就職活動を行っている人で、隙がない（完璧な）人物を目指している（演じている）人がいるかもしれないが、自らの不完全性を認めることで、不完全な自分がどのように社会（または会社？）に貢献できるか分析でき、自分の生きる道、足りないものが見えてくるだろう。

卒業まで時間がある後輩へ、大学生活には本当に様々なチャンスがある。まず、自ら出逢う研究テーマを突き詰めれば、その道のトップランナーに会い、議論できる。学業をおろそかにしないでほしい。また、国際学会で発表したり、留学したりと自分が望めば国際的な視野を広げる機会もある。国内でも視点を変えれば、解決すべき社会問題は多々あり、ボランティア等で活躍する場は無数にある。ただし、私の僅かな経験から、それらのチャンスに巡り合っても、それに飛び込むのは意外にも勇気がある。しかし、元を質せば私もあなたも不完全な人間だ。チャンスとあらば頑張って勇気を出して飛び込むべきだ。失敗したって勇気を伴って下した決断は他でもないあなた自身が見ており、必ず次へとつながるからだ。

### 私は社会でこう生きてきた ～出会った人に支えられていることを忘れない～

#### 青木 光広

平成2年3月・医学部医学科卒業  
大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科学/医療情報学 臨床教授



バブル景気がまだ残る平成2年に岐阜大学医学部を卒業すると同時に同大学耳鼻咽喉科教室に入局した。入局当時、自分が歩く道は実家の医院に繋がっていたが今の道にはそれはない。同教室は伝統的にめまい・平衡障害に関わる「前庭研究」で有名であったこともあり、「平衡リハビリテーション」を主題に岐阜大学大学院で医学博士を取得した。当時、故ダイアナ皇太子妃がパトロンをしていたNational Hospital for Neurology & Neurosurgery (NHNN) に渡英し、平成10年に帰国した。

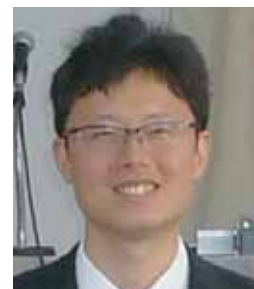
めまいは様々な感覚情報の混乱で起こるため、各器官の障害として患者を診るのではなく、人の内部にある平衡制御システムの破綻としてとらえる必要がある点に難しさがある。そのためか、当時も今もめまいを訴える患者さんは非常に多いが、めまいを専門に診る医師は少ない。NHNNから帰国後、めまい専門会員、バラニー学会員、厚労省前庭研究班として、めまいを含めた耳学問に心酔し、加えて日本平衡神経科学学会賞を受賞できたことが今の道を進む原動力になっている。また、NHKテレビ「名医にQ」で共演させていただいた東京医大長鈴木衛先生のめまい研究への真摯な姿勢にも感化された。耳鼻咽喉科宮田、伊藤両教授を始め同教室員、大学院を過ごした第2解剖学教室、留学先のNHNN、第2生理学やスポーツ医科学の先生方、現在副部長を併任している医療情報部の紀ノ定教授ほか多くの方と出会い、そして支えていただいていることに感謝の念が絶えることはない。

自分で自分の長所を見つけることは難しい。一方で、出会った人が自分の長所を見出し、出会った人が自分の輝きを増してくれることがある。人生意気に感ずるとはまさにこのことで、だから人との出会いは大切にしたい。加えて、どんな仕事に就いても点滴石を穿つことを信じれば継続できる。積み上げるキャリアは貴重であるが千丈の堤も蟻の穴から崩れることを肝に銘じ、今日が最高の自分であるように自分磨きと人との出会いに金と時間をつぎ込んでみてはどうだろう。

## あなたの可能性

### 笠原 正博

平成22年3月  
地域科学部卒業



皆さん、就職活動お疲れ様です。就職するために企業研究や自己分析を重ね、毎日忙しい日々を過ごされていることと思います。そんな皆さんに私から2つのことをお伝えしたいと思います。

ひとつは、「自分は将来どうなりたいか」というビジョンを描いてほしいということです。私は、大学を卒業後、愛知県警に就職し、短い期間で退職しました。その後、地元の市役所に就職して今年で6年目となります。私が2つの職業を経験して感じるのが、「仕事は自分の思い通りにならない」ということです。お客様から理不尽なクレームを受けたり、上司から突然期限の迫った仕事を頼まれたり、会社内の人間関係でトラブルになったりと様々な要因でやりたくないことをやらされることも少なくありません。そうしたことで悩むことも多く、せっかくの休日でも心から楽しむことができなくなってしまうこともあるでしょう。そうならないためにも仕事は人生の目的ではなく、人生の可能性を広げる手段であると考え、人生の目的を据え、その目的を達成するために仕事で何を学ぶか、何を實現したいのかという視点で仕事に取り組んでほしいと思います。

もうひとつは、興味のあることにどんどんチャレンジしてほしいということです。そうすることで、多角的な視点で物事を見ることができるようになります。これは仕事に限らず、日常生活にも役立ちます。ある視点だけでしか見ていないと解決できない問題も他の視点から見ると意外と簡単に解決してしまうこともあるのです。また、興味のあることにチャレンジすることで新たな目標が生まれ、自分の可能性を広げることにも繋がります。

就職活動で忙しい中、これらのことを考えることはあまりないかもしれません。私自身もそうでした。しかし、就職活動をする中で、就職するための活動だけではなく、これら2つのことが大切であることを就職してから日々実感しています。この文章が1人でも多くの方に役立てば幸いです。皆さんが素晴らしい人生を歩まれることを願っています。

### 出前授業

## 中部経済連合会「企業・人材プール」の出前授業を実施

中部経済連合会を通じて紹介された企業と岐阜大学とがマッチングを行い、初めての出前授業が実現しました。6月27日(火)4限目、工学部204教室において、電気電子・情報工学科 応用物理コースの2年次必修科目「応用物理入門」の一環として、技術者としての考え方や経験、また物理や数学がどのように社会で活かされているのかをテーマに講義が行われました。講師として(株)豊田自動織機 技術技能ラーニングセンター技術人材育成室室長 村山昌孝氏をお招きしました。

豊田佐吉のG型自動織機を始め、現在同社の売上げの上位を占めるカーエアコンに使用するカーコンプレッサーの開発について、小型化・軽量化・効率化を追求していった過程の紹介がありました。また、カーシェアリング、自動運転車、空飛ぶ車の紹介など自動車産業の今後についての話に学生は興味深く聴き入っていました。

授業の後半にはフェルミ推定を使った演習問題がありました。「日本に電柱は何本あるか」という問に対して、仮定を上手く立てて推定していく学生が大勢いたことがうれしかったとの講師の感想がありました。学生からは、社会に出てからも仮説を立てて考えていくことや常識に縛られない発想も大切であるとの感想が寄せられ、好評な出前授業でした。



(株)豊田自動織機 村山昌孝氏

## 報告 丸池清掃プロジェクト

### 籠橋 文子

学生ボラネット メンター

「岐阜大学のシンボルでもある丸池をきれいにしたい。」そんな学生達の持ち込み企画から「丸池清掃プロジェクト」は始まりました。授業「現代社会とボランティア・地域活動」の受講生たちが丸池とその周辺の下見、計画、学内関係者や業者との打ち合わせなどを行い、5月24日大学の「春のクリーンキャンパス」の日に合わせて清掃を行いました。

思った以上にメダカが多かった事や、給水を完全に止めることが出来なかった事、池周辺の草が根強く簡単に抜くことが出来なかった事など、想定外の出来事に準備不足を反省する学生も多いましたが、池に入っている作業は大変ながらも実に楽しく行われました。藻を完全に取り除く事は出来ませんでしたが、池に生息していた生き物に関して地域科学部の向井貴彦先生にミニ講義もしていただき、初めての丸池清掃プロジェクトは幕を閉じました。

「ボランティア活動って今ある活動に参加するだけじゃなく、自分達でも作り出せるものなんだ。」そんな発見も出来た時間となりました。



## 報告 プロジェクト型インターンシップ

今永 典秀

地域協学センター 特任助教

平成28年度の後期に「プロジェクト型インターンシップ」の講義を実施した。本講義は、企業等から与えられた課題に対して、約3か月間にわたり、学生がグループで協働し、解決策を具体的に提案する講義である。PBL型（Project-Based Learning）と呼ばれるスタイルであり、担当教員は必要に応じて学生に質問を投げかけ、進捗のサポートや必要な知識のレクチャーを適宜提供する。企業は大学と協働し、教員と協力しながら学生に対する助言・指導を実施した。

受講学生は1年生から3年生まで10名、今回は2つの企業・自治体の課題（テーマ）に取り組んだ。

〈テーマ〉

- ①秋田屋本店の新商品TEA HONEYに関するマーケティング戦略
- ②本巣市文化ホールの活性化策の検討

10月中旬に課題の提示を受け、1ヶ月毎に中間提案を行い、1月末にはそれぞれ最終的な提案を実施した。秋田屋本店に関しては、試食の実施やアンケート調査をもとに、チラシや説明資料を完成させた。本巣市文化ホールに関しては、たくさんの方の企画のアイデア出しを行い、その中から本巣市の担当者の意向も踏まえて厳選し、最終的な提案を実施した。なお、本巣市とのインターンシップは、十六銀行からの紹介で実現した。

学生にとっては、受け身ではなく、主体的に関与することが求められるが、2チームとも最初は戸惑う様子が見られたが、最終的にはチームワークよく一致団結して取り組む姿が確認され、最終発表では企業・自治体の職員に向けて堂々とプレゼンテーションを実施した様子が印象的であった。

〈地域科学部2年 安藤なるみ〉（岐阜市・秋田屋本店：新商品TEA HONEYのマーケティング）

学部も個性も違う6人のチームで「秋田屋本店の新商品であるTEA HONEYという蜂蜜加工品の宣伝を考える」課題に取り組みました。当初は、「商品の理解」と「目標の設定」に苦しみましたが、「紅茶味の蜂蜜」以外のよさについて試食を通して発見し、意見交換により活動の方向性を決めました。しかし、企業に中間提案を行ったところ「認識のズレ」が発覚し、「連絡を密にとることの重要性」「意見を出すことで相手の考えも固まること」を学びました。最終目標はパンフレットを製作することとし、再度試食やインタビューを入念に行った結果、納得のいく提案ができました。企業への提案を通して、「考えを説明する難しさ」を痛感しましたが、回数を重ねるごとに「うなずいてもらえる回数が増えたこと」が印象的でした。「普段の学びが提案や制作のときに武器として使えること」や、「考えをぶつけあうことで新たなもの生み出す楽しさを発見できたこと」は大学生活をより有意義に過ごすための貴重な経験になりました。



秋田屋本店へ提案する様子

『大変ではあるけど、楽しかったし、真面目にやれば必ず自分を成長させることができ、絶対に得るものがあると思います。』

〈工学部2年 佐野 葵〉（本巣市・十六銀行：本巣市文化ホールの活性化策）

岐阜大学に在学しているからこそ経験できるものに参加したいと思い、昨年度「地域協学センターの次世代地域リーダー育成プログラム産業リーダーコース」のインターンシップ科目などを受講し、納得できる形で終われなかったため、そのリベンジを果たそうと思い、この講義を受講しました。

毎週、グループでメンバーと妥協することなく議論し、冗談を言い合って爆笑するなどとても楽しかったです。発表準備は大変でしたが、グループワークを通して、「意識して雰囲気良くしよう」と盛り上げました。良い案を出すための作業の流れ、問題の本質を見極めることの大切さを実感しました。また、どれだけ頭の中で想像しても、実際に取り組んでみると、思ってもみなかった面白さや困難さに出会うことを痛感しました。やらない言い訳を考えるのではなく、もっと積極的に行動してチャレンジしていきたいと強く思いました。発表は簡単ではありませんでしたが、本巣市の方々が毎回真摯に聞いて助言をもらうことができ、いろんな意見交換ができたことに励まされて、最後まで頑張れました。自分たちの思いが伝わることで実感できたことは、自信にもなりました。

『インターンシップを始めとした「産業リーダーコース」は楽しくワクワクする経験や出会いがたくさんあります。是非、多くの人に参加し、交流して欲しいです!!』

キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・土田 亮  
（キャリア支援部門長）  
委員・坂口 菜朋子  
（キャリア支援部門副部門長）

委員・白村 直也  
（キャリア支援部門・特任助教）  
委員・正村 隆弘  
（学生支援課課長補佐・就職支援室長）  
委員・五味 進司  
（キャリア支援部門事務担当）

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリア支援 | 就職支援 | イノベーション創出若手人材養成  
TEL 058-293-3393 | TEL 058-293-2147・3362 | TEL 058-293-3492  
career@gifu-u.ac.jp | job@gifu-u.ac.jp | innova@gifu-u.ac.jp